

一粒耕心



あきた白神大豆
 栄養が詰まった畑の肉

宮 薫さん

(能代市・拓友)

平成10年に設立したJAあきた白神大豆生産組合（高橋信男組合長）。栽培研修会や講習会の開催で、年々品質の向上が図られ、市場でも高評価を得ています。

能代市拓友の宮さんはそのような高品質な「あきた白神大豆」を栽培している農家の1人です。以前勤めていた畜産関係の仕事を辞め、実家の農業を継いで10年以上が経ちます。

栽培のこだわりについて何うと「肥料をあまり使わず、堆肥をふんだんに使っています。そうすることで、土本来の力で育ち、さらには経費節減にもつながっています」と教えてくれました。また、今年の生育については「収量は多かったものの紫斑病が発生した圃



場もあった。生育は天候に左右されるが、今後も湿害対策などを適正に行っていきたい」と話してくれました。

宮さんは栽培の問題点を見つけやすく、どの圃場で被害粒が出ているか確認できる自家調整を行っています。「自家調整をすることで、次年度への対策を考えることができるし、何より、自分が大事に育てた大豆がどれくらいの価値なのか分かる。手間がかかるけどそこまでこだわっているよ」と宮さん。力強く話す言葉からは、栽培に対する自信が伺えました。今後について宮さんは「圃場が点在しているので、効率がありません。今後はその問題を解決し、作付面積の拡大に取り組んでいきたいと思っています」と話してくれました。

経営規模
 大豆……………30 ha

